

Think of Next

CSR報告書

Vol.10 2022



特集

中特ブランド品質を確立するために

トピックス、NEXT 17 Targets、CSR7つの中核課題



■中特グループ スローガン&ロゴマーク■

まちと未来をキレイにする仕事。



企業理念

使命

「私たちは生活環境革命で人々を幸せにします」

基本姿勢

1. 私たちは、私たちを取り巻く全ての人々に誠実に接します
2. 私たちは、時代の風向きに敏感に反応し、いかなる時代が来ようとも存続します
3. 私たちは、共に地球に暮らす一員として、社会のために役立つ存在となります

行動指針

1. 明るく元気に
2. 迅速丁寧
3. 目配り気配り思いやり
4. ピンチはチャンスプラス思考

目指すポジションNo.1

- 社員の幸せNo.1
- お客様の満足No.1
- 社会に貢献No.1
- 未来の創造No.1

■グループ各社スローガン■

<中国特殊株式会社> <株式会社藤井興業>

水まわりで、地域まわり。

<株式会社吉本興業>

スマイルアップ、クリーンアップ。

<株式会社リライフ>

捨てられたモノに、いのちを。

<株式会社ポータルハートサービス>

思い出も整理する。



ISO26000 7つの中核課題



目次

中特ブランド品質を確立するために	3	7
中特グループのIT活用推進	8	
トピックス	9	12
NEXT 17 Targets	13	16
環境のために	17	18
地域社会とともに	19	20
お客様とともに	21	22
社員とともに	23	24
事故災害ゼロをめざして	25	28
第三者意見	29	
公正な事業と組織運営のために	30	

組織統治
公正な事業慣行
 労働慣行・人権
 公正な事業慣行
 消費者課題
 環境
 および コミュニティへの参画
コミュニティの発展

編集方針

中特グループのCSR / CSVの取り組み、事業、その他の活動をステークホルダーの皆様へご報告する様に編集しています。ホームページ等でも開示していますのであわせてご覧ください。作成にあたっては環境報告ガイドライン、ISO26000、及び国連持続可能な開発目標 (SDGs) を参考にしました。

対象期間 2021年10月～2022年9月 (一部対象期間外)

中特ブランド品質を確立するために



出席者（座談会メンバー）

橋本ふくみ：中特グループ CEO

石井 貴大：(株)リライフ リサイクル事業部 未来開発グループ リーダー

梅本 貴史：中国特殊(株) エコ事業部 マネジメント グループ リーダー

坂本明日香：(株)中特ホールディングス 総務管理部 経理財務グループ リーダー

藤田 晃大：(株)中特ホールディングス CS 営業部 CS 営業グループ リーダー

松村 翔：(株)吉本興業 環境事業部 マネジメントグループ リーダー

山本 勉：(株)中特ホールディングス 未来創造室 IT 戦略グループ リーダー

聞き手：吉本妙子：(株)中特ホールディングス 企画広報室室長

品質管理委員会設置

中特グループの品質を上げるために何をすべきか？

橋本…2020年取得のリライフの下松リサイクル工場に続き、中特グループ全6社で認証取得すべく、昨年度より取り組んでいるISO9001取得活動についてですが、その中身を理解すればするほど、今の中特グループにとって必要な重要課題であると感じています。今年8月から「品質管理委員会」を設置し、今ここにいる6名をメンバーとして任命しました。あらためて、皆さんと一緒に中特グループの品質を上げるためには何が必要で、何をすべきかをぜひ話したいと思いました。また、社員の皆さんにもこの対談を讀んでいただく事で、「品質管理委員会」を通じて自分たちの仕事はどう好転するのか、そしてその結果お客様に何を還元できるのかなど、理解も深まるのではないかと考えています。

中特グループは3年後に創立60周

特集 中特ブランド品質を確立するために



橋本ふくみ CEO

年を迎えます。積み上げてきたものと同じくらい凝り固まった負の遺産があります。今後中特ブランドとして、お客様からさらに「中特さんに任せてよかった」と思っていただけのような品質を上げていくにはどうすべきなのでしょう。

吉本…中特の品質をブランド化するために重要なものは何だと思えますか。

石井…僕が重要なものとして挙げるとすれば、「お客様ファースト」です。理由としては、お客様によってご要望が結構変わってくると思っていますよね。それが速さを求められる

場合もあれば、価格を下げたいと言われる場合もあります。

他にも、現在埋め立て処分している廃棄物をコストが多少上がってもリサイクルして欲しいとのご要望もあります。その様なさまざまなご要望を受け止め、提供し続けることが重要なのではないかと思います。

橋本…なるほど。お客様の要望も多様化していますよね。「お客様ファースト」は言うまでもなくとても大事だと思います。

しかし一方で思うのは、お客様はその道の専門家ではありません。私たちは専門家としての幅広いアドバイスをお客様に提供し、その選択肢を増やして差し上げることも大事なのではないのでしょうか。

吉本…中特品質を確立するために今一番取り組むべきことは何でしょうか。

坂本…社内手順とか様式の統一だと思います。私は経理業務をしているため、各社からの情報をもとに処理を進める必要があるのですが、様式が微妙に異なり混乱する場合があります。それらを統一する事で複雑になっていた部分が解消されます。

属人化からの脱却を目指して！

業務の見える化、標準化が

喫緊の課題

山本…統一されていないというのは、未だ属人化の部分が続いているからだと思います。業務の出来栄が一人ひとりの力量に左右されています。まずはそこから脱却するという事でもあると言えます。そうになると、具体的に基準を作ったり、それを見える化する必要があつてスキルマップは必須になります。各人の力量を見える化するというのは大事で、中特品質を確立するという点では期待できるかなと思います。



山本 勉

吉本…皆さんの現状の共通した悩みとして挙げられるのは「属人化」からの脱却という事でしょうか。

梅本…僕は中国特殊の業務として考えた時に、案件の進捗管理をすることが大切かなと思っています。中国特殊は特に業務の種類が多いので、受注の形態が様々です。

作業依頼のタイミンクが契約によって異なるので、業務の全体像を理解していないと業務の不履行にもつながるので、もっと可視化していききたいです。

受注は安定しているので、業務を確実に履行することが何よりも大事かなと考えています。

橋本…現在、案件ごとに条件が異なっているのは、過去に個別にその時々々に最適な条件だと考えた結果であるとも言えるんですね。もしかししたらそれが「お客様ファースト」の結果かもしれないです。お客様の要望に沿おうと思いついた結果、中特の基準が不明確になっていたというはあるかもしれないですね。

吉本…IT戦略グループとして、全部門にIT化という視点で関わるなかで、気になることはありますか？

山本…IT視点で捉えた場合、判断基準が曖昧になっているのは致命的です。

例えば50という起点だった場合に50以上なのか50以下なのか、では50はどちらに属するか？などです。人間であれば以上や未満と使い分けますがシステムだったら50の時どうするのかを定義付ける必要があります。数値や基準を明確にしなればIT化は進みません。もう一つは、手順の曖昧さがあります。IT化するにはプログラムでシステムを組んでいきますが、各人によってやり方が異なり基準がないため、何をどうすべきか分からなくなります。

橋本…そこなんです。昨今IT化しなければと声高に言われていますが、高額なシステムを導入すれば魔法のように瞬時に出来上がるなんてあり得ないわけなんです。標準化できないとIT化なんて絶対できないですよ。

松村…私が入社した際はすべてが口伝でした。言葉でしか教えてもら

えないことが多かったんですよ。みんな一人ひとり仕事に対する熱い想いを持っているのにそれが手順書としてしっかり整理出来ていませんでした。

先ほど、部署間で様式が異なるという話がありました。吉本興業の中でも様式が統一されていませんでした。そのため、記載情報が正しいのか否か悩むこともありました。過去のデータがないと分析もできない。役職者や担当者の中には情報があるのですが、データとして標準化されていなかったのです。



松村 翔

橋本…そのような状態では、新たに入ってきた方は仕事やりづらくて大変です。中特グループはグループ会社間の人事異動も積極的にやるうとしています。そのためにも属人化からの脱却、標準化が喫緊の課題でもあります。

吉本…品質管理委員会として関わっている中で色々な気づきもあつたと思うのですが。

藤田…活動していく中で気付いたことですが、普段どれだけ曖昧な表現に頼つてたかというのを改めて感じました。「なるべく早く」とか、「できるだけ綺麗にやつ」と。相手の立場に立てば、そのような曖昧な表現は使うべきではないと思いました。確実に伝えるために5W1Hがあらためて重要なんだと。互いに「言わんでもわかるだろう」は甘えなんだというのを今感じています。

橋本…相手の立場を考慮するようになったとの事です。具体的にはどの様な事がありましたか。

藤田…営業部から事業部へ向けては、いつまでに、どこまで、この様な形でやってください、などを依頼する



藤田 晃大

際に気を付けて伝える様になりました。営業時にお客様からも曖昧な表現のご依頼がまれにあるんですが、受け手側としては勝手に解釈して判断をしてしまう場合もあるんです。ですので、「つまり○○ですか？」「いつまでに○○したらいいですか？」と確認はしますが、今思うと、もっと丁寧しておく必要があつたと反省しています。

橋本…良い気づきでしたね。

藤田…はい。自分も苦労したことを次の方にもさせているじゃないかっていうことですね。

橋本…その様に、分かっているだろう、

伝わっているだろう、そのくらい理解してよ、などはこちら側の奢りかもしれないですね。現在、会社としても多様性を受け入れることのひとつとして、外国籍の方と一緒に仕事をしています。受取り方に違いがあるなど感じる場合があります。感性も生活習慣も違う彼らに曖昧な指示を出していたら問題が起って当たり前だなど思います。そのためにもやはり標準化されたルールが必要です。

中特グループ品質の強化すべき点

吉本…中特品質の中で、自慢できる、誇れる、またここを強化した方が良い点など何がありますか。

松村…日々の作業において、各々が個別に作業の中の一と手間として、お客様目線でのサービスをやっていると思うんですね。それを、言語化文章化すると、他の人に伝わりやすいと思います。なぜそのひと手間をかけるようになったかというエピソードがあると共感も得られやすい。

吉本…そうですね。他にも安定運用のため強化する点などについて意

見ありますか。

山本…「無理と言わない」「断らない」というのはすごく良いところでもありますが、一方で無理して受注した結果、現場が疲弊してしまつた。短距離走型ではなく、中長距離走型へのシフトチェンジを強化すべきだと思います。持続可能出来るようにそこを改善する。

実際の営業案件でも似たような事例があるんじゃないかと思えます。

藤田…そうですね。お客様からのご要望を現場サイドにそのまま伝えると「なんとかしよう」という心強い返事を貰うのですが、その分現場に無理強いをさせてしまつてるかもしれないですね。しかし、それだと続かないのですよね。営業サイドとしては有難いですが、今後どうすべきか課題だと思つています。

石井…僕も同じくそう思います。

橋本…それはリライフに限らず、他の事業部でも同じですね。お断りせずに、何とかお役に立ちたいと考えて受けてしまつ。しかし、頑張りすぎて疲弊して事故など起こしてしまつたら元も子もないです。持続するた

めにも、これまでのやり方に独自のサービスや技術を生み出し、これまでと異なる付加価値をお客様に提供できるようにしていきたい。

品質管理委員会の役割と挑戦

吉本…あらためて、ここで品質管理委員会に任命された時の気持ちを聞かせてください。

梅本…そうですね。任命されて僕は、とにかく仕事をシンプルにしたいと思いました。中特グループ、中国特殊の永い歴史には、やはり良いところが沢山あるじゃないですか。

ただ、ちょっと見えない部分があり



梅本 貴史

ながらも、そのままのやり方で来てしまったので、業務が複雑化してしまつたと思うんです。そこをシンプルにしたいです。すると、部署間の異動もスムーズになると思います。

藤田…各社各様のやり方を撤廃するチャンスだと思いました。

橋本…永年仕事をしている中で、おそらく問題が生じるたびにその都度改善策を講じてきた。しかしそれを続けていくうちに、新興国などでよく見かける景色ですが、電柱に複雑に絡み合った電線のようになつてしまつた。つまり、部分的な改善はできていても全体的な改善には至つていなかったという事です。そこで私はISO9001の仕組みをフル活用し、抜本的な改革を行おうと考えたわけです。あらためてメンバーの皆さんには中特グループの未来のために、ぜひ協力してもらいたいと思つています。

吉本…今のお話を受けて、皆さんの様な活動をしていくべきだと思いますか。

山本…全体の骨格作りです。一番重要な骨格はこのメンバーで作り、肉

付けは各部署で整備をしていけば、各部署でPDCAや改善提案も進むようになります。

松村…ISO9001の考え方や仕組みを全社員にも定着させていくべきだと思います。僕は現在、この様な形で携わっていますが、実はよく理解していない方もいると思います。広く理解してもらおうのも品質管理委員会の役割かな、と。

梅本…各社の課題解決と同時に使用する書類や言葉を統一していきたいです。そうすれば、会社間での異動時の引継ぎの際も業務が滞ることなく品質が保てると思います。



坂本明日香

坂本…私も同じ意見です。全社共通の基礎・基準、様式作りです。

自部署だけではなく中特グループ全体のこととして課題解決していく。それが実現できれば異動や業務ローテーションもスムーズに行え、連携も深まると思います。

石井…ここにいるメンバーはそれぞれ所属が異なっているので相互の部署を見て回り、様々な視点からの改善や気付きを共有、協議する活動



石井 貴大

が出来れば良いと思います。その結果、「質」は必ず上がると思います。

僕は昨年のライフ下松リサイクル工場でのISO9001取得時にも携わり経験しているので、皆さ

んの何か一つでも役に立ちたいと考えています。

藤田…このメンバーでグループ全体を底上げしたいという想いももちろんありますが、何か新規事業ができればと面白いなと思います。

橋本…頼もしいですね。

藤田…僕らの知恵と技術を持ち寄って、全く新しい価値を社会に出していくというような会社を創るというのが最終目標にあつたらワクワクするんじゃないかなって感じました。

橋本…今日、あらためて皆さんと話をしましたが、とても前向きに取り組んで頂いていることを嬉しく思います。皆さん日常業務もある中で、この活動を進めるには様々な課題があると思いますが、皆で協力しながら取

り組んでいって欲しいと思います。もちろん私も協力します。皆さん一緒に頑張りましょう。



ミニ特集 中特グループの IT 活用推進

理想の姿

中特グループでは、IT 活用を単なる事務業務の効率化ではなく、あらゆる分野の業務改革のためであると考え、IT 活用の推進を通して、

- ・業務改善（業務プロセスの効率化、社内コミュニケーションの活性化）
- ・事業強化（生産性の向上、顧客サービスの向上）
- ・経営の見える化（データ分析）

など経営改革に必要不可欠なものを目指しています。



取引先様と



名刺交換

sansan

社外向け：オンライン名刺交換、メール配信
※顧客満足度の向上を目指して社員同士で情報を共有



商談

zoom

オンライン商談



業務連絡

LINE WORKS

チャット：日々の業務連絡、緊急連絡、
LINE 連携でお客様とも直接やり取り可能



契約

CLOUDSIGN

電子契約による、紙の契約書の削減



請求書発行

BtoB 請求書
プラットフォーム

請求書の受取・発行を電子化

中特グループ内の環境整備



働く環境

フリーアドレス

グループ全拠点の Wi-Fi 環境整備

zoom

拠点間オンライン会議、中特アカデミー

テレワーク環境

業務システムのクラウド化、リモート環境の整備



労務管理

SmartHR

給与明細、源泉徴収票、年末調整

KING of TIME

勤怠管理：出退勤打刻、有給取得、各種申請



将来ビジョン

- ・システム連携、見直しによる事務業務のさらなる効率化
- ・現場の IT 化推進：記録表など紙の様式のデジタル化によるデータの蓄積・分析
- ・AI/IoT 技術を活用した、工場の設備保全、遠隔監視、自動制御、省力化、無人化
- ・在宅勤務など、多様な働き方を実現するための環境整備

COIL Upcycle Art Contest 2021

グランプリ表彰

1月29日、「廃棄物について考えるきっかけを与える」というコンセプトの廃棄物アートコンテスト「COIL Upcycle Art Contest 2021」の最終プレゼン及び審査表彰をおこないました。今回は初の開催にも関わらず、全国から123点もの応募があり、そのうち12作品が1次選考（企画書による書類審査）を通過し最終審査に臨みました。コロナ禍ということもあり、WEBとリアルでのハイブリッド開催となりました。



入選作は次の通りで、中特ホールディングス新社屋に最終審査に残った12作品が展示されています。グランプリ

出品者：金崎晟南（岡山県）
作品名：Has an aura.



準グランプリ

作品名：Run Through The Future!
出品者：増森順子（滋賀県）
審査員特別賞（2名）
作品名：流れ着いた寅さんーマスキシリーズー
出品者：原田とおる（山口県）
作品名：さいわいの瀬ー
出品者：金田麻梨香（秋田県）
奨励賞
作品名：還る
出品者：田中秀幸（滋賀県）

COIL Upcycle Art Contest 2022

入選作品決定！

2回目の開催となるCOIL Upcycle Art Contest 2022は公募を6月から7月に実施し、全国のクリエイターの方から計100点もの作品プランが集まりました。今年には応募者の7割が現役クリエイター、そして今まで廃棄物アートとは無縁だった方からの応募が多かったことで、廃棄物を用いた創作の価値についての反響の大きさを改めて実感する結果となりました。素材やコンセプト等についての白熱した議論の末、7作品を入選作品として選出しました。

入選作家は9月から制作を始め、2022年12月10日に開催される最終審査会に制作物を出品した後、審査員への5分間公開プレゼンテーションに挑みます。

今回で2回目となる本コンテストですが、昨年を上回る128点の応募がありました。アートが持つ力によって、廃棄物や環境問題の未来について考えるきっかけになれば幸いです。

Reの森プロジェクト進行中

11月にスタートしました「Reの森プロジェクト」について趣旨にご賛同ご芳志いただいた皆さまへ改めて厚く感謝申し上げます。現在、敷地内に11種類270本の木が植樹されており、春の陽気とともに芽吹き、猛暑・台風も過ぎて微かに紅葉し始めた木もあります。まだまだ森としては生まれただばかりではございますが、30年後には木々も生い茂り地域の皆さまの癒しの場となるよう社員一同育てて参ります。

どうぞ、成長をご一緒に見守っていただきたいと思います。



〔試算〕 1本の木の葉面積5㎡として
1㎡当り2.6kg/年CO₂を吸収する場合
Reの森で年間3,510kgのCO₂が吸収されます

Topics 2022

AT : 2021.10 ~ 2022.9

「ROBBO」スタート

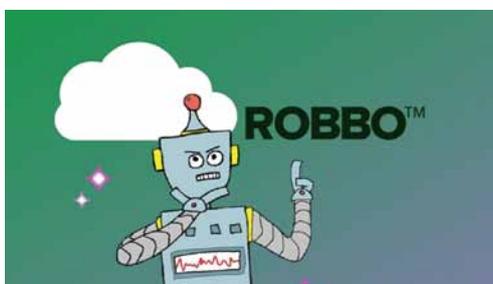
英語でプログラミングが学べる「ROBBO」は

文部科学省は2020年から「英語」及び「プログラミング」を必修化しました。これは、小学校教育において「社会の変化に対応し生き抜くために必要な資質・能力を備えた子どもたちを育む」ことを目的としたもので、まさにグローバル社会やデジタル社会に対応した施策といえます。

そこで、(株)中特ホールディングスでは英語でプログラミングを学ぶスクール「ROBBO」の運営事業を新たに4月よりスタートしました。

教育先進国であるフィンランドのヘルシンキ大学にてシステム化された教育システムである「ROBBO」はSTEAM教育(下記参照)という時代の流れにマッチしたこともあり、世界21か国にて採用されているシステムです。

日本では東京渋谷校、福岡校に次ぐ3校目となります。また、経産省EdTech対象サービスとしての認定も受け、都内の公立小学校やインターナショナルスクールでも採用される信頼できる教育システムです。



SCIENCE	ロボットを使って理科を学ぶ
TECHNOLOGY	テクノロジーでロボットを進化
ENGINEERING	スマートホームも学べる
ART	2Dだけでなく3Dデザインも学ぶ
MATH	数学も実践的に学ぶ
+	
ROBOTICS	ロボット工学を楽しみながら学ぶ

「体験の機会の場」

認定第2号を取得

環境省の推進する「体験の機会の場」として「海岸漂着物で作るクラフトアート」プログラムが山口県知事より002号として認定されました。これはダチヨウの給餌体験プログラムに続く2つ目の認定となります。

3月19日に初回「海岸漂着物で作るクラフトアート」を開催
6月18日に2回目、7月18日に3回目を開催



産業観光ツアーで

ダチヨウへの給餌を体験

8月17日 周南地域の4商工会議所(徳山・新南陽・下松・光)が開催する「産業観光ツアー夏休み親子教室」の参加者の皆さまにダチヨウの給餌体験をしていただきました。

参加者の皆さまには

- ・食品ロス問題
- ・中特グループの食品リサイクルグループ
- ・フードバンク活動

などについて説明しダチヨウへの給餌体験をしていただきました。初めての体験に少々緊張しながらも皆さま楽しんでいただいた様子です。



「やまぐちパワーアップ セミナー」にて 橋本CEOが講演

8月18日、山口県セミナーパークで開催された、公益財団法人山口県ひとつくり財団主催の「やまぐちパワーアップセミナー」にて橋本CEOが講演しました。

小・中・高等学校等の30歳代〜40歳代の中堅の教員の方へ向けに行われるもので、「中特グループの挑戦」として弊社の沿革から現在に至るまでの活動についてお話ししました。皆様真剣にご聴講いただきました。



「海のゆたかさをまもろう」 環境学習イベントを開催

8月7日、光市虹ヶ浜海岸にて「海のゆたかさをまもろう」環境学習イベント（山口県新たな時代の人づくり協働推進補助事業）を開催。3つのことを体験し学びました。

- ① 虹ヶ浜海岸クリーンアップ
- ② マイクロプラスチック調査
- ③ CHANGE FOR THE BLUE
カードゲーム

山口県初のこのゲームで海の環境を守るためには何が大切なのかを感じ取った様子です。



ラオス学生との 交流会開催

7月1日、ラオス学生との交流会をしました！

3年前より「中特グループ奨学金」としてラオスビジネス商業大学の学生さんへ支援を行っています。この度リモートでの顔合わせとなり「オンライン授与式」を行いました。

コロナ禍でリアル開催はもう少し時間がかかりそうですが、ラオス語と英語と日本語が飛び交う楽しい交流会でした。



JR徳山地区連合会様へ SDGsセミナー開催

5月12日、中特グループが取り組んでいるSDGsについてご紹介しました。

「とても勉強になった。SDGsという壮大なイメージだけでなく暮らしに落とし込むことができることがわかった。」などのご感想をいただきました。

こうして地域の皆様に共感をしていただき、共にSDGsに取り組んでいけることは大変うれしいことです。少しでもお役に立つことが出来れば光栄です。



改善を学ぶ 勉強会開催

4月3日、大阪工業大学情報科学部データサイエンス学科の皆川健太郎教授に来社いただき改善を学ぶ勉強会を開催しました。

ISOはPDCAを実践していくことで『継続的改善』をすることを目的としています。ISO9001認証取得活動に関連し、更に『改善』を行い仕組みの『簡素化』をしていくための着眼点改善のポイント等を研修しました。



大竹市よりジュニアリーダーが体験の機会のあるプログラムに参加

11月22日、広島県大竹市よりジュニアリーダー育成事業として13名が体験の機会のあるプログラム「ダチョウの給餌体験」に参加され、食品リサイクルや食品ロスについて一緒に考え学習し、実際にダチョウの給餌体験をしました。

最初はとまどいもあったかと思いますが貴重な経験になったかと思えます。



表彰

令和3年度「チャレンジやまぐち地域貢献賞」を受賞

10月28日、山口県より令和3年度「チャレンジやまぐち地域貢献賞」を受賞し、村岡県知事より表彰状を頂きました。数年にわたり社員一同で取組んで来た事が評価され、本当に嬉しい限りです。



令和3年度「やまぐち働き方改革推進優良企業表彰」優秀賞受賞

10月12日、山口県より令和3年度「やまぐち働き方改革推進優良企業表彰」優秀賞の表彰を受け、山口県庁にて村岡知事より表彰状を頂きました。全社員が働きやすい環境作りに今後も取り組んでいきます。



2021年度の持続可能な社会づくり表彰で「資源循環活動賞」を受賞

以下の取組が評価されての受賞です。

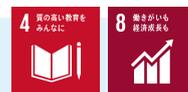
- ① 地域と連携した環境学習機会の提供
環境出前授業、いきいきサロン訪問他
- ② 社会課題解決型企業としての取組み
食品ロス削減の取組み他
- ③ 廃棄物処理リサイクルへの取組み
有用な廃棄物リサイクル他

NEXT 17 Targets

次世代のために果たすべき、中特グループの17の課題 【経営&ISO統合目標】

中特グループが地域社会に強く必要とされるために、次世代のために、環境のこと、社会のこと、子供たちのことを考えてグループで何をすべきか、あるべき姿に向かって取り組んでいます。2030年を見据え3か年計画並びにTargetsを見直し、17の課題に取り組んでいます。

No.1 中特アカデミーによる自己成長



社員の自己成長を図り、自ら考え行動する自立型姿勢を基本に、お客様から頼りにされる人、中特グループ目標を達成実現できる人、本気のプロフェッショナルを目指し「中特アカデミー」を実施しています。

2015年度から開始し8年目となります。2022年度は、部長・GLの管理職は情報セキュリティなど12単位、一般・主席・主任はCEO講話・廃棄物処理法など8単位の必須科目を受講します。また、部長・GLは中小企業大学研修を含めます。



No.2 事故・災害の撲滅



災害事故は常に"ゼロ"を目標に取り組んでいます。
業務の内容に関連して車両による小さな物損事故が散発します。
JBK（事故撲滅研修）・RA（リスクアセスメント）活動・KY活動その他諸々の活動により2020年度3件まで減少しましたが、2021年度5件となりました。さらに安全運転・KY運転・かもしれない運転を徹底して事故ゼロを目指し活動します。

事故災害年度別発生状況



No.3 中特チームカイゼン活動



社員の問題意識を高め、業務効率化・コスト削減・省資源・省エネ・安全・環境美化向上等々を図るため、改善提案制度を実施しています。

2021年度実施採用件数は268件/年となり、目標件数（300件）には届きませんでした。

2022年度は実施採用件数300件/年目標で、内容のレベルアップを引き続き図ります。



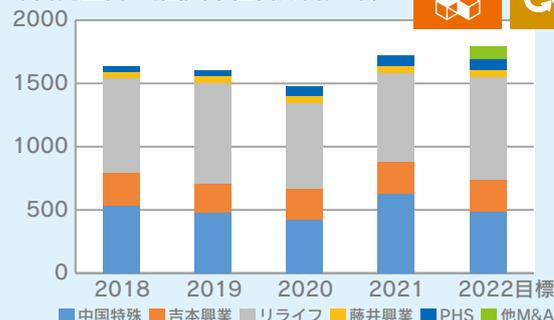
No.4 年間売上増



売上高は、2021年度は前年比8.1%増の16億となりました。2022年度は、18億（M&A含む）を目標としています。

少子高齢化、人口減、周南コンビナートの操業減少・産廃減少など、厳しい状況ではありますが、リサイクル事業拡大・解体事業拡大・ポータルサービス事業の展開・異業種との連携など売上増に取り組んでいきます。

年間売上高の推移(単位百万円/年)



No.5 経常利益率10%目標

営業利益率目標を10%としています。
2021年度はわずかに目標に届かず9.6%となりました。
受注からの各プロセス業務について見直し、改善を進めてまいります。



No.6 働き方改革、労働生産性向上

少子高齢化・労働人口減少の中で持続可能性を確保するために、少数精鋭で生産性の高い体質作りが重要です。IT活用・業務効率化を進め、同時にワークライフバランスの推進・社員の健康で充実した生活を後押し、「社員の幸せNo.1」を目指して働き方改革を推進します。



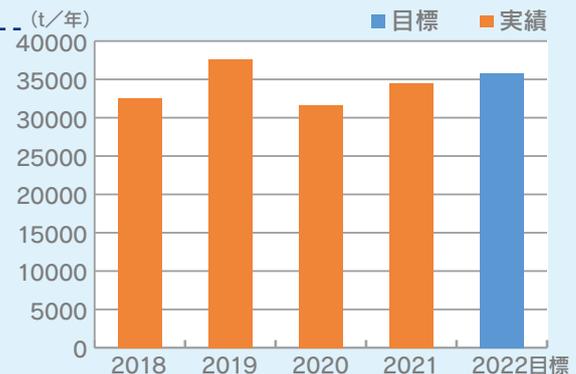
No.7 お客様の声収集とクレーム50%削減

私たちの収益の源は「お客様」です。
事業経営の最良のコンサルタントはお客様です。そのお客様の声にしっかりと耳を傾け、漏らさず拾い上げ、ニーズをとらえ、活かすことで顧客満足度を上げ、さらには私たちのレベルアップにつながり、さらなる顧客サービス向上につながります。
2022年度からお客様の声収集は、内容重視とし各事業部で内容を吟味検討し対応する仕組みに変更します。



No.8 廃棄物受入量の拡大

産業廃棄物（汚泥・がれき類・廃プラスチック類・もえがら・ばいじん・その他）の受入量は、地球環境維持向上のため、お客様のニーズに応えるため、売上増のため、拡大を図るべく取り組んでいます。
2021年度は、前年度9.2%増加し、34,518t/年となり目標を達成しました。



No.9 再資源化量の拡大

汚泥等の再資源化量についても廃棄物受入量と連動し、拡大を目標として取り組んでいます。

2021年度は、前年比6.2%減少し28,243t/年となりました。これは搬入先の受入れ制限などがあったためです。

引き続き受入量拡大に取り組んでまいります。

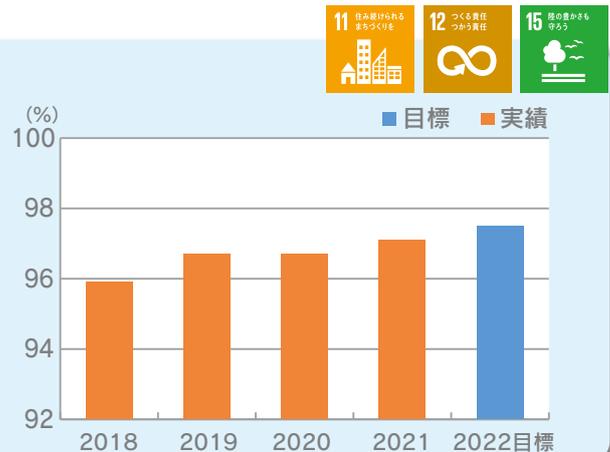


No.10 再資源化率アップ

地球環境の維持改善にわずかでも貢献するため、産業廃棄物の再資源化率を極力上げる様に取り組んでいます。

2015年92%から向上を図り、2018年度95.9%、2019年度・2020年度96.7%にアップしてきました。2021年度は97.1%となりました。

さらに向上を目指します。

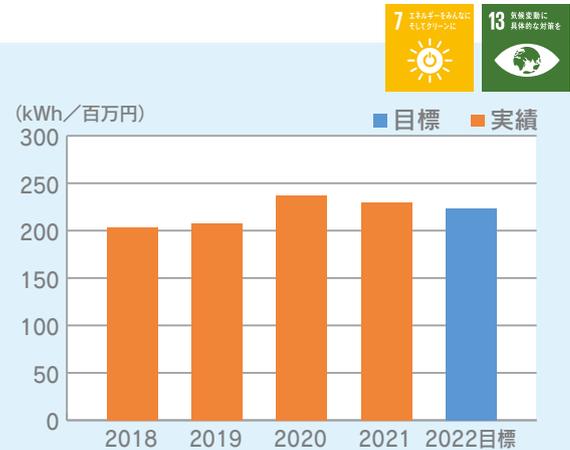


No.11 電気使用量原単位の削減

日本政府は、CO₂排出を2030年に2013年比26%減で取り組んできましたがこれをカーボンニュートラル実現のため見直し46%減としました。

中特グループもこれに倣って見直し従来の年2%削減から年3%削減に変更し取り組んでいます。

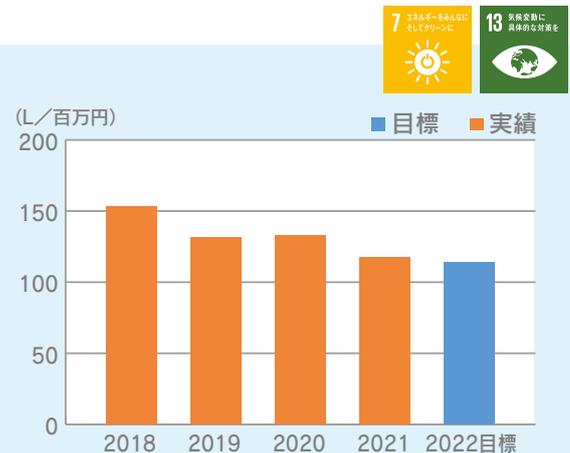
2021年度は、売り上げ増加及び節電効果により原単位は2.8%減となりました。



No.12 燃料使用量原単位の削減

燃料原単位についても、電気使用量と同様に年3%削減目標に変更し取り組んでいます。

2021年度は燃費削減努力、環境配慮型車両への更新ならびに売上増により目標を達成し11.7%減となりました。今後とも効率的な運行ルート、アイドリングストップなど燃料削減の取り組みを継続してまいります。



NEXT 17 Targets

No.13 CSR活動の浸透・CSR検定合格者50%

CSR活動のさらなる浸透を図って行きます。
 CSR検定試験3級合格者は2020年度末合計21人でしたが2021年度+1名の22人となりました。
 従来試験事務局を担当してきましたが、試験の形式が完全オンラインとなり、社内掲示板にて受験案内し、奨励金を出して受験拡大を図っています。



No.14 ボランティア活動への参加

地域のイベント時及び海岸などの清掃ボランティア活動を継続して実施しています。
 クリーンアップボランティア活動は従来の延べ回数から、2015年度より1人当たりの年間5回以上の参加目標としています。
 2021年度もコロナ禍で各種イベントなどが中止となり、クリーンアップボランティア活動も少し復活してきましたが、まだ以前の様な活動が出来ていません。ボランティア精神は忘れずにできることを実践行動いたします。

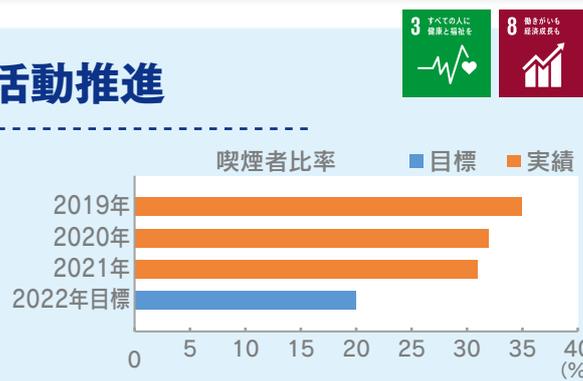
No.15 女性社員比率、女性管理職比率アップ

多様性・ダイバーシティを推進し、現在、女性社員比率は34.2%まで上がりました。来年度には35%にすべく推進します。
 障がい者雇用、法律(43.5人以上の企業2.3%)には該当しませんが5%を目指して努力します。また、外国人雇用についても採用活動を積極的に行っていきます。



No.16 健康経営の確立と健康増進活動推進

2021年1月中特グループ全6社で「やまぐち健康経営認定制度」を取得、グループ全社が認定基準65点以上を達成しました。今年も継続維持向上します。
 健康診断結果100%フォローします。
 喫煙者比率の減少に取り組んでいますが、1名の減少に留まりました。



No.17 リスク管理・BCP見直しと機動的運用確認

異常ともいえる豪雨・台風など、予想される東南海巨大地震、新型コロナ・インフルエンザなど感染症対策、これらの発生時に、地域社会に必要とされるためにBCP(事業継続計画)を確立します。
 2021年12月に中小企業庁より中特グループとして「連携事業継続力強化計画」の認定を受けました。BCPに対し一定の評価を得ましたが、運用して万一の事態に対応できないと意味がありません。
 作成したBCPを基に定期的に訓練と検証を行い充実を図って行きます。
 自助・共助・公助を基本として、社員と地域社会のくらしを守るBCPの確立と運用を進めます。

環境のために



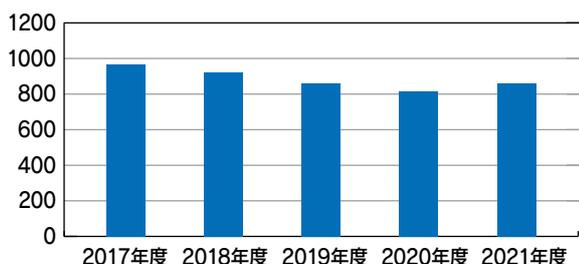
「中特グループは、地球上の全人類及び地域社会とともに持続可能な発展をするために、環境保全に努め、環境に優しい企業活動を行う。」という考えのもと、地域環境活動を推進しています。

CO₂削減の取組み

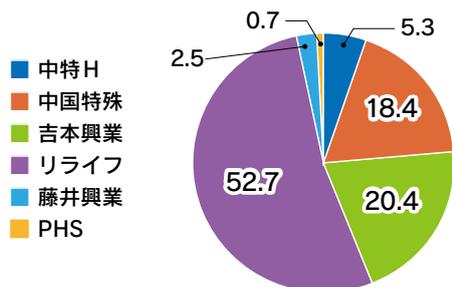
日本も2050年のカーボンニュートラルを宣言し、2030年までの削減目標を定めています。これに沿って中特グループもCO₂削減を推進しています。

2021年度CO₂発生量は863 t-CO₂/年と省エネなどを推進しましたが新社屋の電気使用量増などの影響で前年比5.6%増加となりました。今後具体的な削減に取り組んでまいります。尚、算出はSCOPE1・2の集計でSCOPE3は調査中で対象外です。

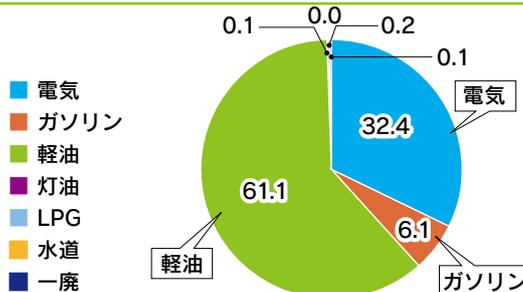
CO₂排出量推移 (単位: t-CO₂/年)



各社別CO₂排出内訳 (%)



種類別CO₂排出内訳 (%)



種別排出量並びに各社別排出量は次の通りです。

環境不適合	原因と対策
2021年度上期目標未達不適合3件 リラライフ電力・燃料原単位削減他	売上未達成、退職者もあり効率的取遣不十分、省エネ設備切替検討
内部監査不適合4件 文書見直し・環境側面洗出し・緊急事態訓練未実施各1件他	未実施項目の即実施、及び再発防止実施済み
2021年度期末目標未達不適合4件 再資源化量拡大、電力・燃料原単位	セメント生産減少、廃棄物受入減少のため申請
緊急事態発生なし	-

環境不適合の発生状況

2021年度次の不適合が発生しました。其々原因調査並びに処置対策を実施しています。環境緊急事態の発生はありません。

環境ISO14001の2年次サーベイランス審査

今回より認証機関を変更、インターテックサーティファイケーション(株)に審査を依頼し、7月4・5日サーベイランス審査を受審しました。改善の機会が5件ありましたが不適合はなく、マネジメントシステムは十分有効との判定を受けました。



改善の機会

- ① 著しい環境側面の管理状況監視結果を一覧表に記録する手順となっているが、記録の一覧表が古い
 - ② 力量レベルの明確化レベルアップのための計画的教育について検討の余地あり
- その他3件

SDGsの 重点取組み

昨年4月より、国連のSDGsアクションガイド（ナマケモノにもできるアクションガイド）を参考にグループで取り組む重点5項目を設定し活動することになりました。

さらに今年度は個人の年度目標にも落とし込み細かい活動を推進しています。



中特 SDGs、 省エネ・省資源・リサイクル活動

- ① 電気を節約、不要照明消灯、エアコン温度設定
- ② 紙を節約、印刷を少なく、ソフトで対応
- ③ マイバッグ・マイボトル持参
- ④ 余った食べ物をフードバンクへ寄贈
- ⑤ ノーマイカー・相乗り・自転車・徒歩移動

マテリアルバランス

事業活動に伴う資源・エネルギーなどの投入量と、それに伴う地球環境への排出量を表しています。限りある資源を大切に、環境負荷を最小限にすべく取り組んでいます。

(2021年度分)

INPUT

事業に伴う資源・エネルギー等

汚泥	17,334t
がれき類	372t
ガラスコンクリ他	111t
廃プラスチック類	990t
金属くず類	248t
繊維くず	5t
紙くず類	20t
ダンボール紙類	304t
木くず	555t
廃酸廃アルカリ	924t
廃油	268t
鉱さい	149t
もえがら	1,146t
ばいじん	1,439t
動植物性残渣	1,769t

処理水	54,892m ³
水道水	3,194m ³
地下水	2,259m ³

電力	435,040kWh
ガソリン	20,495ℓ
軽油	201,781ℓ
灯油	717ℓ
LPG	81m ³

コピー用紙	291,710枚
-------	----------

中特グループ

OUTPUT

再資源化、地球環境への排出等

(リサイクル対象のもの)	
セメント原料	25,864t
がれき類	1,474t
ガラスコンクリ陶磁器	7t
廃プラ	195t
ペットボトル	65t
金属くず	174t
缶	74t
紙・繊維くず	4t
ダンボール紙類	304t
木くず	523t
肥料原料	0t
石膏ボード	33t
(リサイクル対象としないもの)	
汚泥焼却	3t
汚泥埋立	857t

処理排水	47,610m ³
下水排水	3,087m ³
地下水排水	2,182m ³

CO ₂ 排出量(換算)	863t
(エネルギー及び水道使用量から算出)	

一般廃棄物	1,059kg
-------	---------

リサイクル率 97.1%

リサイクル率

リサイクル率は下記の式で算出しております。

$$\text{リサイクル率 (\%)} = \frac{\text{直接資源化量} + \text{処理後再生利用量}}{\text{廃棄物排出量}} \times 100$$

リサイクルするもの：金属、木材、紙、プラスチック、セメント原料、肥料原料等

リサイクルしないもの：埋立処分、燃料（サーマルリサイクル）等

地域社会とともに



中特グループは、地域社会の一員として、地域社会とのかかわりを大切に、グループ全社をあげて様々な企業活動を行っています。

フードバンク活動

2022年7月でフードバンク山口しゅうなんステーション開所後3年が経過しました。8月末までに17.14tもの寄贈をいただいております。

これからも「もったいない」を「ありがとう」に変える活動にご協力をお願い致します。

3月25日 櫛ヶ浜市民センター様フードポスト設置



4月19日 フジ新南陽店様
フードポスト設置



周南蚤の市に出展

8月13日に徳山駅前広場で開催された周南蚤の市に出展しました。

COIL Upcycle Art Contest2021の入賞作品の展示を行い廃棄物の活用を訴えました。また、来場者にはアップサイクルについての想いなどを模造紙につづってもらいました。

今後も廃棄物の有効活用についてアピールしていきます。



「たのしいのりもの大集合」に出展

5月5日こどもの日に、JR徳山駅前で開催された「たのしいのりもの大集合」に出展しました。下水道調査体験（中国特殊・カメラ車）とごみ投入体験（吉本興業・パッカー車）を展示し、たくさんの方に参加いただきました。



こどもっちゃ商店街

11月23日、こどもっちゃ！商店街に出展しました。コロナの影響で規模が縮小された開催でしたが、若手社員がスタッフとなり、参加してくれた子どもさん達にゴミの分別をしてもらい、小パッカー車（手作りのゴミ収集車）に積んでそれぞれの処理場まで運搬する仕事を体験しながら、なぜゴミの分別が必要なのか、分別したらどうなるかを説明し、一緒にゴミのリサイクルについて考えました。

日頃から、ゴミの分別に慣れているのか、皆さんの分別の早さにスタッフ一同驚かされました。



太華中キャリア学習

3月15日、周南市の太華中学校で1年生を対象とした「ライフデザイン講話」が開催されました。

様々な職種で活躍している人の話を聞き、進路や自らの生き方を考えることを目的とした授業に、講師として今年1月に入社したカザフスタン出身の社員が登場しました。

生徒の皆さんはとてもシャイで緊張している様子でしたが、真剣に話を聞いてくださり、「Just do it!」の動画は印象に残ったのではないだろうか。生徒の皆さんが将来を考える時にきつとこの「キャリア学習」を思い出してくれることを思います。



環境出前授業

周南市内小学校の環境出前授業を継続実施中です。コロナ感染症防止のため講堂で距離を取って大声を出さない様に対応して開催しました。

11月17日 周陽小学校



いきいきサロン

周南地域のコミュニティのいきいきサロンへ訪問しています。

コロナ禍で開催が難しくなっておりましたが少しずつ活動できるようになってきました。たくさんの方とお会いして楽しい時間が過ごせます。

7月15日 大向市民センター



清掃ボランティア活動

6月4日 下松市はなぐり海岸
清掃ボランティア（リライフ主催）



7月9日 周南市大津島海岸

清掃&稚魚放流ボランティア
(山口県釣り団体協議会主催)



お客様とともに



中特グループは、お客様や地域に愛される企業を目指し、真にお客様の立場になったサービスに取り組んでいます。

Happy Happy勉強会

6月3日に「第15回 Happy Happy勉強会」を開催いたしました。

今年のHappy Happy勉強会は食品ロス問題ジャーナリストの井出留美氏をお招きして「食品ロス問題〜持続可能な社会のためにできること〜」と題し、ご講演いただきました。

今回は初めて新社屋でのリアルと、WEB (YouTube Live) とのハイブリッド開催としました。



井出留美氏

食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。日本では「食品ロス」は522万トン。これは世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量(2020年で年間約420万トン)の14倍に相当します。ま

た、食品ロスを国民一人当たりで換算すると、「お茶碗1杯分(113g)の食べもの」が毎日捨てられることとなります。

2019年にコンビニ・スーパーなどの恵方巻の売れ残り状況を井出氏が独自に調査してインターネットニュースで配信したことは、人々が無視できない情報となり企業の食品ロス削減の動きが加速しました。

食品ロス削減推進法の立役者となった井出氏は食品ロスをなくすべく、社会に警鐘を鳴らし



続けてきました。消費者にできることは何か? 分かり易く伝えてくださいました。

リライフ下松リサイクル工場ISO9001
サーベイランス審査

9月21、22日、(株)リライフ下松リサイクル工場はISO9001の2年次サーベイランス審査を受けました。

改善の機会が2件ありましたが、品質管理システムは有効で認証継続妥当と判断されました。



改善の機会

- ① 品質管理グループのQMSに関する役割・責任・権限を明確にすること
- ② 薬品倉庫のシユウ酸の表示が不明確、化学物質の危険性・有害性に関する情報を確実に伝達すること

さらに「PDCA」を繰り返して、継続的改善を推進していきます。



中特グループ全社で
ISO9001
認証取得活動

リライフ以外のグループ残りの5社においてもISO9001を認証取得すべく活動しています。各社個別ではなくグループ一括で取得すべくISOの各要求事項への対応並びに業務の見直し標準化推進中です。

品質管理委員会活動中

ISO9001認証取得活動はプロジェクトチームを編成し活動しており、品質管理委員会(巻頭特集)が活動の中心です。

お客様の様々なニーズに答えるとともに改善し続ける仕組み作り、学び続ける人財作りを目指します。

認証取得ありきではなく、業務の仕組み改善・標準化を重点に、2022年度中の取得を目指し活動しています。

お客様のご意見



洋林建設株式会社
建築部工事長 岡村 憲太様

私は、洋林建設で建設現場の施工管理業務を行っています。昨年は、貴社本社屋COILプロジェクトに携わることができ、大変光栄に思っております。建設中は、弊社及び貴社ご担当者様、設計者の皆様と携わるメンバーが定期的に集まりミーティングを行いました。その際に皆が各々の疑問点や要望などの情報共有が可能となりましたので行き違いなどはほとんどなく、

工程通りスムーズに建設が進みました。皆様のご協力により、良い建物を安全に楽しく建設することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後、本社屋COIL建物でお困りの事などあれば、お気軽にご連絡頂けると幸いです。

さて、このたび「お客様のご意見」寄稿のご依頼を受け、CSR報告書を改めて拝見いたしました。最初に企業理念の使命「私たちは生活環境革命で人々を幸せにします」を掲げられ、基本姿勢や行動指針、目指すポジションNo.1など明確に表現されており、会社の目指す方向を社員が共通理解することで一体感のある組織が醸成されていると感じます。また、社員とともにでは「社員は会社にとって一番大切な存在で、社員とその家族を守る事を最大の目標とし、事業拡大よりも優先します」の言葉には、グループ代表CEOの会社は社員のためにあるという強い思い、家族に対する優しさを感じました。

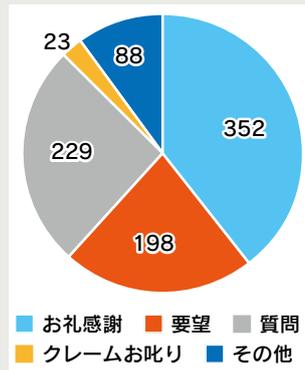
昨年COILプロジェクトに参加させて頂く中で、社員の方々のモチベーションの高さに驚嘆することが多々ありましたが、おそらくCSR報告書で示されていることを体現しているのではないかと感じました。弊社も学ばせて頂くことが多く、上司に「当社もこの前向きで一体感のある組織が作れると良いですね」と話したこともありました。今後は、私も建設現場の責任者として、配属された部下とその家族を幸せにし、良い建物を安全に楽しく建設していくことができるよう努めてまいります。

最後になりますが、COILプロジェクトを通じて地域社会へ貢献されることをご期待申し上げますとともに、貴社のますますのご発展をお祈りいたします。

2022年度のお客様の声収集は内容重視とし各事業部で内容詳細検討の上推進します。

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
連絡コミュニケーション不良	19	4	5	3	3
対応遅延による督促など	15	11	7	9	6
ミス(宛先、請求書内容など)	12	7	4	2	5
作業ミス、トラブル	9	10	7	8	4
運転マナー、駐車場所など	9	7	2	1	1
その他	14	14	2	4	4

クレーム・お叱りが23件あり、内容は表に示す通りです。昨年度に比べ全体で4件減少、督促・作業ミスが減少、宛先請求ミスは増加しました。



苦情ゼロとお客様の声
苦情は1件発生、内容は依頼仕事の対応遅れでした。お客様の声は2021年度890件/年でした。内容は左の通りです。

社員とともに



中特グループは、「すべては、応援からはじまるの精神で接する」という社員に関する方針を掲げ、社員は会社にとって一番大切な存在で、社員とその家族を守る事を最大の目標とし、事業拡大よりも優先します。

事業発展計画発表会

テーマ：
You can do it!

8月27日(土) 2022年度中特グループ事業発展計画発表会を遠石会館にて開催いたしました。
今年も新型コロナウイルス第7波の中、感染防止対策を十分に実施し開催しました。



グループ代表 吉本英子より
テーマに沿って「君ならできる！」地球全体が大変なことになっているがどんなに環境が変わっても生き残る。気持ちが変わりながらも仲間同士励まし合い、「君ならできる！」と声をかけあいながら取り組んでほしいと話がありました。



CEO 橋本ふくみより
2021年度総括および中特グループ経営地図の発表があり、増収増益となった昨年度の状況及びトピックス、そして今年度の目標や重点施策、さらには未来へのチャレンジなどの話がありました。

各社経営計画発表

中国特殊株式会社 吉本龍太郎
株式会社藤井興業 大山 隆
株式会社吉本興業 吉本 妙子
株式会社ポータルハートサービス 篠田 直美
株式会社リライフ 廣瀬 光雄



ご来賓の皆さま

株式会社日本政策金融公庫
下関支店中小企業事業総括課
総括課長 田中 智行様
株式会社山口銀行櫛ヶ浜支店
支店長 安田 雅典様
株式会社西京銀行周南グループ長
周南支店長 吉積 正悟様
株式会社広島銀行執行役員
徳山支店長 徳永 光俊様

表彰

◆最優秀部門賞

中国特殊株式会社
みんなが一致団結し高い目標を達成しました。



◆永年勤続表彰

30年勤続
20年勤続

大工 李新生
川島 建勇
井上 稔朗
廣瀬 光雄



各部門の個人表彰

今年もコロナ禍のため懇親会はなく各部署での表彰となりました。受賞おめでとうございます！

熱心に取り組んだで賞



竹中隆一さん
(株)中国特殊(株)
eクリーニンググループ

CUACを盛り上げたで賞



鈴木美穂さん
(株)中特ホールディングス 総務管理部
新規事業グループ

家具の解体が素晴らしいで賞



柴田恵満子さん
(株)ポータルハートサービス

輝いているで賞



田中由美さん
(株)リライフ リサイクル事業部
リサイクルグループ

「自分行けますよ」を実行してくれたで賞



伊藤一美さん
(株)吉本興業 環境事業部
スマイルグループ

社内コミュニケーション充実中

LINEWORKS 掲示板を利用し社内コミュニケーションの充実を図っています。

- ・ **ふくみチャンネル**
CEO 橋本ふくみの思いをグループ社員に伝える手段の1つで、定期的に動画を配信し社員に伝達。

- ・ **新入社員紹介**
新入社員の方を全社員へ向け発信知ってもらうと共に早く溶け込んでもらうと紹介

- ・ **突撃社員インタビュー**
リレー形式で選ばれた社員のインタビュー動画により、知られざる社員の新たな一面を公開

- ・ **俺の道具**
各部署の社員の仕事へのこだわりポイント、愛用している道具機器などを紹介

- ・ **資格合格者インタビュー**
社員が様々な資格に挑戦合格しており、その内容・苦労話などを紹介

SDGs コラム

SDGsの各ゴールについて内容・世界の状況・日本の状況・中特グループの取り組みなど説明



LINEWORKS
掲示板

中特アカデミー& 社外研修

社員の自己成長を図り、自ら考え行動する自立型姿勢を基本に、お客様から頼りにされる人、中特グループ目標を達成実現できる人、本気のプロフェッショナルを目指し実施中です。2022年度は、部長・GLの管理職は通常単位以外に中小企業大学研修もあります。

また、社外研修としてワイエムプレミアムビジネスクラブ「セミナー」、スキルアップ研修、ポリテクセンター山口主催の生産性向上支援訓練などの受講制度もあります。

ハラスメント防止

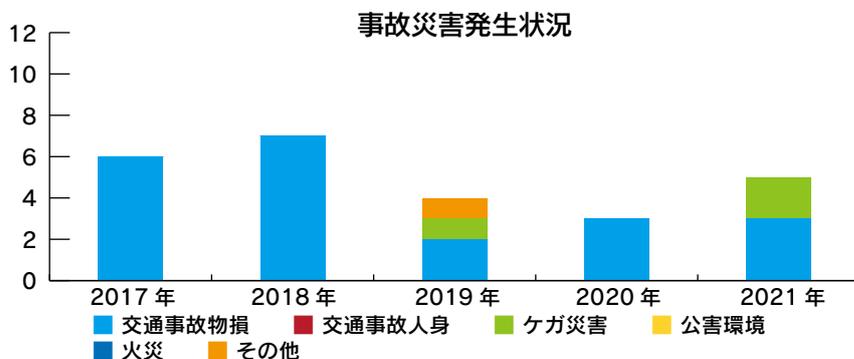
中特グループでは、社員の人権を尊重し、差別や嫌がらせのない職場環境をめざして、各種施策に取り組んでいます。

もし、セクハラ等のハラスメントを行ったら、事実関係を調査し、その程度によって、懲戒処分を行います。社内にて専門の相談窓口を設け顧問弁護士、顧問社労士との連携も図っています。

事故災害ゼロをめざして



安全衛生・防災は、すべてに優先する考えのもと、事故災害ゼロを目指してグループを挙げて、各管理者・安全衛生委員を中心として安全衛生防災活動に取り組んでいます。



2021年度5件の交通物損事故・不労災害が発生してしまいました。休業災害の発生はありません。

事故災害発生状況

	内容	原因
①	夜市個人宅で汲取り後小道を進行中、左側に駐車中の軽トラにバキューム車の左後部タイヤハウスが当たった	3 tギリギリの道をミラーを格納し走行、助手の誘導無し、左側に寄り過ぎ、通り慣れた道で過信
②	周営第14分水池敷地内通路で、門のレールに躓き転倒、右薬指骨折亜脱臼	転倒する意識がなく、危険の認識なかった、小走りで行っていた
③	花陽町現場取材で空き地に入った際、段差があり段差通過時、左後ろバンパー接触	軽車両で行くべきだった、事前情報検討不足、段差のある空き地へ入った
④	久米個人宅浄化槽清掃でバックで進入時、家の鉄骨にバキューム車助手席上部を接触し破損した	全体確認不足、ミラーの死角、危険意識が不足・過信、雨天・昼前の時間帯焦り
⑤	若草町委託処理回収中、徒歩で移動時坂道で転んで左足首を捻挫	下り坂を走った、疲労があった 厳しい条件（時期・時間、場所等々）

中小企業が策定した防災・減災の事前対策に関する計画を経済産業大臣が「事業継続力強化計画」として認定する制度で認定を受けた中小企業は、税制措置や金融支援、補助金の加算などの支援策が受けられます。

今後も防災・減災に向けて取り組んで参ります。



12月7日付で中特グループは(株)中特ホールディングス、中国特殊(株)、(株)吉本興業、(株)リライフ、(株)藤井興業、(株)ポータルハートサービスの全6社による「連携事業継続力強化計画」の認定を経済産業省中小企業庁より受けました。

BCP（事業継続力強化計画）認定

安否確認 アンケート訓練

震度5強以上の地震が発生した場合の社員全員の安否確認についてLINEWORKSの安否確認アンケートを適用することとし、3か月に1回安否確認訓練（テスト）を実施しています。

従来メール・TEL連絡網を使用していましたがグループ全員が他の全員のアンケート情報を見ることが出来るのでいざという時に情報共有が出来、役に立つのではと期待しています。

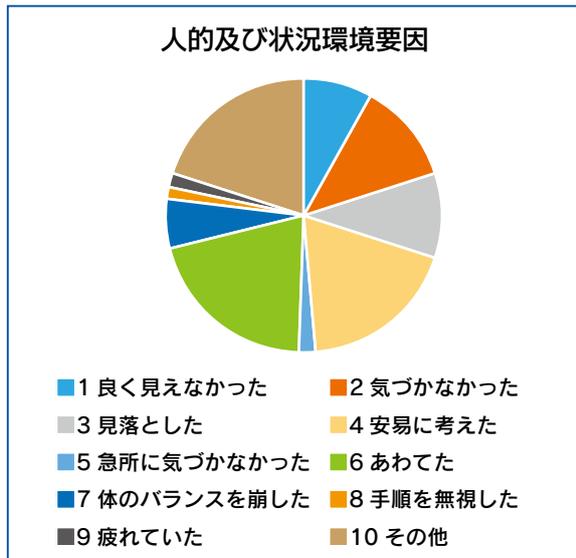
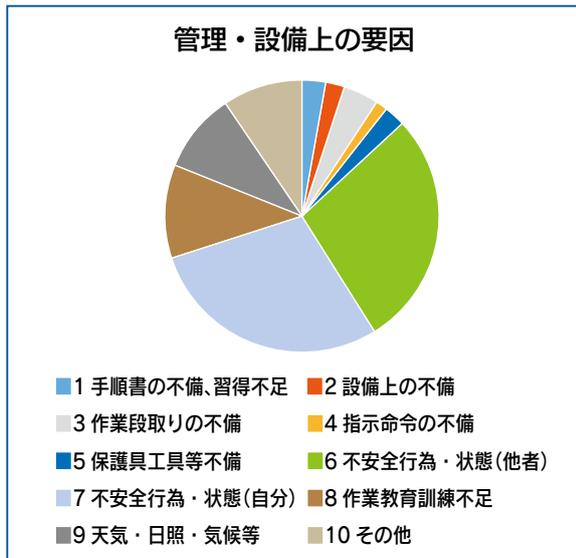
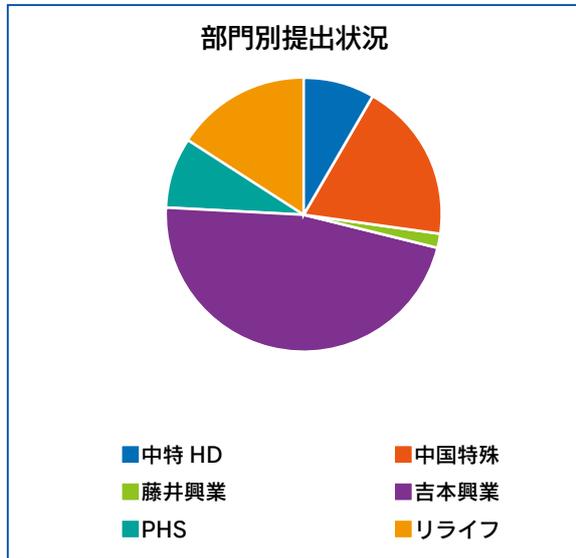
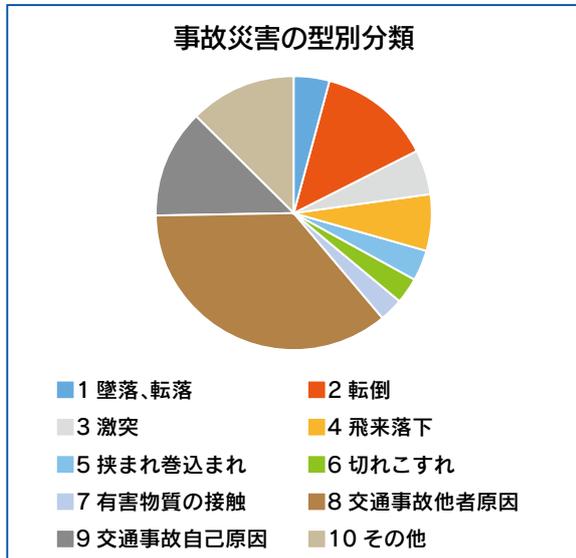
今後も訓練を継続し万一の事態に備えてまいります。

非常用備蓄品保管

万一の地震、台風、豪雨等に備えて、飲料水・非常食・毛布その他必要なものをリストアップし保管しています。中特グループ100人強がいざという場合、外部から調達供給がなくても3日間過ごせるようにBCPの中で検討し備蓄しています。

ヒヤリハット抽出と対策活動

ヒヤリハットの抽出と対策を実施し顕在化する事故災害をゼロにすべく活動しています。
2021年度グループ合計で1,512件のヒヤリハットを抽出し、分析と対策を実施しました。
内容は表のとおりです。



RA様式-1 リスクアセスメントシート

令和2年2月6日

令和2年2月6日(追記・修正)
令和2年2月17日(追記)
令和2年2月25日(追記)
令和2年4月15日(追記)

リスクアセスメント対象職場	実施者氏名	作成日				
部門: 花本 隆	メンバー: 石井、村川、尾崎、富塚、高代、藤原、小西、崎岡					
グループ: 花本 隆	藤原、藤本、藤田、花本、藤本、西山、藤田					
チーム: 竹田、藤田、村田、藤室						
作業名	危険源、リスク	定非	既存の災害事故防止対策	現状・リスクの見積り	リスクの低減対策	低減率(%)
AA000	選別施設	定	選別機内には入らない	5 4 5 100 D	カラーコーン設置及び乗機検出時は乗機中従員の立ち入り禁止	2 2
RS 3	乗機と作業員との接触	定	乗機内には入らない	5 4 5 100 D	カラーコーン設置及び乗機検出時は乗機中従員の立ち入り禁止	2 2
RS 4	乗機の高さ及び鉄道の乗機でキャビンと接触	定	目視による確認	4 4 3 48 C	乗機の高さを確認し、乗機で作業する際は乗機の高さを確認し、乗機の高さを確認する	4 2
RS 5	選別中の乗機物に足をとらされて転倒	定	乗機に注意する	5 4 2 40 C	乗機の高さを確認し、乗機で作業する際は乗機の高さを確認する	5 1
RS 6	フォークリフトの転倒	定	フォークリフトの運転を止めないよう注意	5 3 4 36 C	乗機で作業する際は乗機の高さを確認し、乗機の高さを確認する	3 2
RS 7	フォークリフト運転中の乗機	定	乗機を運転し、乗機を運転する	4 3 3 39 C	乗機で作業する際は乗機の高さを確認し、乗機の高さを確認する	4 1
RS 8	乗機と作業員との接触	定	乗機が乗機を運転	4 3 3 36 C	乗機で作業する際は乗機の高さを確認し、乗機の高さを確認する	4 1
RS 9	乗機の高さ及び鉄道の乗機でキャビンと接触	定	乗機が乗機を運転	3 1 4 12 B	乗機で作業する際は乗機の高さを確認し、乗機の高さを確認する	2 1
RS 10	乗機の高さ及び鉄道の乗機でキャビンと接触	定	乗機が乗機を運転	5 3 3 45 C	乗機で作業する際は乗機の高さを確認し、乗機の高さを確認する	5 1
RS 11	乗機で足を踏める	定	乗機が乗機を運転	3 2 3 18 B	乗機で作業する際は乗機の高さを確認し、乗機の高さを確認する	3 1
RS 12	選別ライン階段で転倒	定	乗機が乗機を運転	5 2 4 40 C	乗機で作業する際は乗機の高さを確認し、乗機の高さを確認する	5 1
RS 13	選別機入口に下部に落下し、乗機	非	乗機が乗機を運転	1 2 5 15 B	乗機で作業する際は乗機の高さを確認し、乗機の高さを確認する	1 1

事故災害を撲滅する1つの手段としてリスクアセスメント活動に継続して取り組んでいます。

リスクアセスメント講習修了者並びに管理者を中心に全員参加で取り組んでいます。

毎年作業のリスクを見直し、新たなリスクはないか、さらにリスクを低減する手段はないか、グループメンバーで討議し安全レベル向上を図っています。

リスクアセスメント活動

安全ISO45001再認証

安全ISO45001については2020年1月にプライベート認証取得しておりましたが、今回認証機関を変更することになり、再度認証審査を受審し7月13日付けで認証されました。

1段階審査（予備審査）

5月23、24日予備審査を受け、軽微な懸案はあるものの重大な懸案はなく問題なく本審査受審可能と判断されました。



2段階審査（本審査）

6月20～22日本審査を受審しました。不適合はなく安全マネジメントシステムは有効との判断を受けました。



審査風景



各種訓練

COIL 消防訓練

新たに完成した中特ホールディングス本社（COIL）は不特定多数の方が利用されるため特定防火対象物となっております。防火管理者の選任と消防訓練が義務付けられています。6月9日初回の消防訓練を実施しました。



緊急事態訓練

万一の事故災害を想定して緊急事態対応訓練を1回/年実施しています。



(株)リライフ 薬品漏洩緊急事態訓練

中国特殊(誘導)訓練

中山間地の道路や狭小道路に行くことが多いため、誘導訓練を実施しています。



(株)吉本興業アームローダー操作訓練

コンテナの脱着、入替など熟練した技能の必要なアームローダー操作訓練を実施しています。



JBK(事故撲滅研修) &なぜなぜ分析

中特グループ独自に現業部門でJ B K(事故撲滅研修)を実施していま す。文字通り事故を撲滅するために何 をすべきか検討し実施しています。



中国特殊(株)・(株)吉本興業合同JBK

事故発生(軽微含む)、ヒヤリハッ トの原因をなぜなぜ分析し、1次原因 から3次原因まで掘り下げ対策を実施 しています。



中国特殊(株)HOSグループなぜなぜ分析

相互安全パトロール& 工事安全巡視& 産業医職場巡視

相互安全パトロール
現業部門に対し1回/月安全パト ロールを実施中です。他職場の異なつ た視点で見えて問題点、改善すべき点 を探します。



項目	写真	内容	写真	内容
1. 作業場所		作業場所の整理ができていない		作業場所の整理ができていない
2. 作業方法		作業方法が適切でない		作業方法が適切でない
3. 作業環境		作業環境が適切でない		作業環境が適切でない
4. 作業器具		作業器具が適切でない		作業器具が適切でない
5. 作業時間		作業時間が適切でない		作業時間が適切でない
6. 作業量		作業量が適切でない		作業量が適切でない
7. 作業内容		作業内容が適切でない		作業内容が適切でない

解体工事安全巡視
解体工事の際の安全対策、作業状況を 適宜安全パトロール実施しています。



産業医職場巡視

毎月1回産業医の職場巡視を行って います。事務所内では照度・換気な ど、現場では、作業環境・粉じんなど 専門家の視点で指摘いただき改善を 図っています。

産業医職場巡視記録	
日時	2022年9月12日(月) 15:00~15:30
巡視者	山本産業医 同行者 遠藤、岩崎
対象職場	吉本興業 対応者 山根B、岩崎BD
内容	臭い、気づき等
	・臭い侵入の近くに可燃物(ティッシュ他)あり、離すこと 写真A
	・スポットエアコンのコードつまづきの可能性 写真B
	・古い無災害日数の掲示板、針金など指けたり? 写真C
	・事務所は換気、遮光など問題なし、照明も問題なし
	・階段転落注意の観点から、スポット照明・黄色トラテープ貼りなど検討し

健康増進活動

中特グループ6社

「やまぐち健康経営企業」認定継続

昨年グループ6社が揃って認定され ましたが、定期健康診断並びに健康診 断フォローアップの全員受診その他健 康管理増進活動に取組み認定を継続し ています。

禁煙達成費用補助制度

喫煙社員へ禁煙を奨励し健康増進を 図る、非喫煙者の受動喫煙を減らすために 禁煙達成費用補助制度を始めました。 禁煙チャレンジ申請し、禁煙プログ ラムに取組み禁煙を達成『卒煙宣言』 したら2万円を補助する制度です。 喫煙者比率35%を20%以下を目指し ています。現在1名の禁煙達成のみ となっておりません。

新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス対策は、感染が 始まった当初から情報収集と行政の 方針指導に従うと共に、BCPを見直 し、都度感染防止対策を修正対応して きました。グループ社員感染もありま したが公衆衛生関連業務を担うエッセ ンシャルワーカーの意識を持って行 動、今後もウィズコロナ対応が必要か と思えます。

第3者意見



京都府立大学 大学院
生命環境科学研究科 特任助教
獣医師／獣医学博士
足立 和英様

私は普段大学でダチョウ抗体を利用した感染症予防法をはじめとした新規抗体利用法について日々研究開発を行っております。自身の学生時代も含め、廃棄物処理やリサイクルの業界とは全く無縁の人生を歩んできました。従いまして、どうしてもダチョウを中心とした第3者意見になってしまうことをご承ください。

もう10年ほど前になるでしょうか。橋本CEO、吉本社長のお二人の大学訪問を受けまして、そこから中特HDさんと関わりがスタートしました。現京都府立大学の塚本学長の指示のもと、現在ではほぼ毎月1回のペースでダチョウ抗体作製のためにダチョウへの抗原接種に来させていただいております。そこから廃棄物処理、リサイクル業界と関係性が深まって参りました。

初めてお二人が大学に来られた時には、新しいこと面白いことに興味津々であり、その熱意を非常に感じました。特にダチョウの可能性を感じ、自社で飼いたいとの相談を受けた際には、正直「素人には無理ではないか」、とっておりましたが、担当社員にダチョウ飼育の研修に行かせ、飼育法を学ばせるなど事前準備をしっかりと整えて進めていく様に本気であることを感じました。ダチョウに人間が出した食品廃棄物を食べさせ、そのダチョウの産んだ卵から抗体を作り出し、それをまた私たち人間が利用する。このサイクルのアイデアには驚きました。また、ダチョウは様々な研修にも役立ち、社員や訪問者の方々の癒しにもなっていると聞いております。ダチョウを飼育することで廃棄物処理だけでなく人々を笑顔にしているところにダチョウの大きな可能性を中特HDさんに改めて教えていただきました。まさしく未来を見据えたチャレンジ精神が成し遂げた一例だと思います。

また、その自由な発想で新しい事へ挑戦するといった雰囲気は社風にも感じさせます。中特HDの新社屋にもその要素がふんだんに盛り込まれており、開放感のある斬新なデザインからも、自由で新しいアイデアが生まれるのではとワクワクさせてくれます。フリーエリアから見える木々「Reの森」についても素晴らしいアイデアであると感じました。実際フリーエリアから見えるということで、協賛企業の方々にも最初の1回だけでなく、何度も足を運んでもらい、木々の成長を見守り、四季の変化やその実りを味わう、その際にコーヒーでも飲みながら雑談し、そこからまた新しいアイデアが生まれる。そのサイクルを一緒に味わいましょうとのメッセージを感じました。

このCSR報告書を拝見し、社員の皆様のボランティア活動や環境出前授業といった様々な社会貢献の内容やSDGsへの取り組み、経営目標等、中特HDさんの目指す方向が明確に示されており読み応えのある内容になっております。しかしながら、私から一つ提案させていただくとすれば、ダチョウの個別別廃棄物処理能力の公開です。例えば具体的にある月の個体ごとの廃棄物処理量（食事量や内容）ならびに産卵数が示されれば今以上にダチョウへの愛情が湧き、驚きや小さな笑いも生まれるのではないかと想像されます。

最後になりましたが、5年後10年後、また世代が変わっても常にチャレンジ精神を忘れず、新しく面白いことに挑戦し続ける中特HDさんを応援しております。

第3者意見を受けて

ご意見賜りありがとうございます。足立様に評価されている通りチャレンジ精神だけは負けないとグループ全員が自負しています。今後も厳しく温かく見守って頂きたいと思っております。

ご提案の件、速報値のみですが2021年度（2021.8月～2022.7月）の産卵数は4羽で160個（エイコ46個、イワシ41個、レナ50個、タエコ23個）です。今後の情報公開について検討させていただきます。

CSR推進室 遠藤 清治

公正な事業と組織運営のために

経営執行組織図

SS会議 役員会議

ワクワク会議 部長会議

チャレンジ会議 目標進捗会議

(株)中特ホールディングス

未来創造室

企画広報室

CSR推進室

総務管理部

購買部

CS営業部

設立：平成24年4月
 代表者：橋本ふくみ
 資本金：3,000万円 社員：22名
 事業内容：中特グループ各社の経営企画・総務・営業・環境安全に関する業務

エコライフチーム

コンプライアンス事務局

環境安全衛生委員会

品質管理委員会

改善提案委員会

中国特殊(株)

エコ事業部

- ・SBグループ
- ・eクリーングループ
- ・HOSグループ
- ・マネジメントグループ

設立：昭和41年2月
 代表者：吉本龍太郎
 資本金：2,000万円
 売上高：505百万(2021年度)
 社員：23名
 事業内容：
 一般廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物収集運搬業
 下水道維持管理業、建設業
 解体業、浄化槽保守点検業

(株)藤井興業

設立：平成5年4月
 代表者：大山 隆
 資本金：1,000万円
 売上高：56百万(2021年度)
 社員：4名
 事業内容：
 一般廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物収集運搬業
 貯水槽清掃業、浄化槽保守点検業

(株)吉本興業

環境事業部

- ・スマイルグループ
- ・マネジメントグループ

設立：昭和42年7月
 代表者：吉本妙子
 資本金：1,000万円
 売上高：253百万(2021年度)
 社員：24名
 事業内容：
 一般廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物収集運搬業

(株)ポータルハートサービス

支店営業所

設立：平成30年8月
 代表者：篠田直美
 資本金：1,000万円
 売上高：81百万(2021年度)
 社員：8名
 事業内容：
 遺品整理事業
 各種片付け

(株)リライフ

リサイクル事業部

- ・リサイクルグループ
- ・再資源化グループ
- ・マネジメントグループ
- ・未来開発グループ
- ・品質管理グループ

設立：平成元年2月
 代表者：橋本ふくみ
 資本金：9,500万円
 売上高：702百万(2021年度)
 社員：23名
 事業内容：
 産業廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物処分業、リサイクル事業



まちと未来をキレイにする仕事。

Chutoku Group

株式会社 中特ホールディングス

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3034-1
TEL:0834-25-0606(代表) FAX:0834-25-0607
[東京営業所]
TEL:03-5926-4030 FAX:03-5926-4040

中国特殊株式会社

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-26-0500 FAX:0834-25-2856

株式会社 吉本興業

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3044-2
TEL:0834-25-0423 FAX:0834-25-2939

株式会社 リライフ

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8685 FAX:0834-25-2856
[下松リサイクル工場]
〒744-0002 山口県下松市東海岸通り18-1
TEL:0833-44-0007 FAX:0833-44-1007

株式会社 藤井興業

〒746-0017 山口県周南市宮の前2-2-12
TEL:0834-63-1294 FAX:0834-25-2856

株式会社 ポータルハートサービス

〒745-0801 山口県周南市大字久米 3078-1
TEL:0834-33-8100 FAX:0834-25-2939
[宇部営業所]
〒755-0045 山口県宇部市中央町2丁目5番地5
新光産業株式会社中央町ビル3階



アンケートはこちらから